

同窓会 たより



千葉大学看護学部・
看護学研究科同窓会

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1 TEL 043-222-7171
ホームページ <http://www.n.chiba-u.jp/dousoukai/index.html>

ご挨拶

同窓会会長 岡田 忍 (3期)

あっという間に満開になった桜をゆっくり愛する間もなく、あわただしく新年度がはじまりました。同窓生の皆様も様々な立場で、新しい年度を迎えられていることと思いますが、お元気で過ごしてでしょうか。

同窓会では、ここ数年学部生に同窓会の存在を意識してもらえよう取り組んでまいりました。その中の一つとして、昨年の総会で準会員である学部学生に対する同窓会からの支援の仕組みづくりについて検討することをお認めいただきましたが、この活動を具体化するに当たり、まず、他学部・大学院でどのような支援を行っているか調べてみました。千葉大学全体の同窓生の集まりである校友会から、既にこのような取り組みを行っている園芸学部、工学部の同窓会をご紹介いただき、実際にどのような支援を行っているかを知ることができました。しかし、担当者とのやりとりの中で一番印象に残ったのは、卒業した同窓生の方の「後輩の役に立ちたい」という気持ちがこのような活動を支えているということでした。例えば、園芸学部同窓会では、学部生・大学院生の国際学会への参加費用や研究費の援助を行っていましたが、同窓生からの寄付が活動資金に充てられているとのことでした。本同窓会でも平成24年度には、発行の名簿代金の振り込み時を中心に全部で20万円近い寄付をいただきました。この場をお借りして寄付をされた会員の皆様に心より感謝申し上げます。

看護学部・看護学研究科同窓会は千葉大学の中では一番若い同窓会です。同窓生もまだ若く、臨床現場、教育機関等で中堅として多忙な日々を過ごされており、まだ母校のことに思いを寄せる余裕を持つことが難しい状況にあるかと思います。ただ、少しの時間でも構いま

せんので、時々母校のことを思い出していただけたら幸いです。私たち同窓会役員一同も、同窓生に千葉大学看護学部・看護学研究科の様子をお伝えできるように活動していきたいと考えています。

ここ数年、附属病院に就職した卒業生、大学院に戻ってきた卒業生が委員会活動に参加して下さったことで、同窓会活動が少しずつではありますが活性化しつつあることを肌で感じています。今後とも同窓生の皆様のご支援・ご協力を賜りますよう、どうぞよろしく願いいたします。

最後に、たよりといっしょにお手元に届く個人票の返送についてこの場をお借りしてお願いしたいと思います。個人票のデータにつきましても信頼できる業者に依頼し、様々な情報漏えいのための保護をかけた上で厳重に管理しております。個人票の記載内容は、卒業生の動向を知る重要なデータであり、皆様の母校である看護学部・看護学研究科にとって貴重な財産となるものです。同窓会からのお知らせをお送りする時にも必要なものです。個人票の住所・電話番号は名簿に掲載しないこともできますので、今年も必ずご返送くださいますようお願いいたします。

平成25年度の活動方針として、今後ますます同窓会活動が活性化するよう、以下の2つを提案します。

平成25年度活動方針：

- ①これまでと同様に様々な機会に同窓会の存在をアピールし、在学中、卒業後も同窓会とのつながりを感じられるような活動を行なう。
- ②その一環として平成25年度は準会員・会員に対する支援のしくみについて検討する。
- ③平成27年に同窓会は40周年を迎えることから、40周年記念集会を開催し、平成25年度より準備を開始する。

ご挨拶

看護学研究科長 宮崎 美砂子

千葉では、今年は、亥鼻城の桜まつりの予定時期よりも前に、桜が咲きそろい、今、4月に入ってからは、新緑のまぶしい季節を迎えています。

この4月より、看護学研究科長になりました。宮崎美砂子と申します。私自身も同窓生であり、同窓会活動を通じて、いろいろな先輩や後輩と職場を越えて知り合い、活動する中で、千葉大看護学部卒業生であることを、つねにどこかで意識しつつきてきた一人です。本学の看護学部・看護学研究科は、わが国の看護学を牽引する人材育成を基本理念とし、今後もその基本理念が揺るぐことなく、より堅固なものとなるよう、組織体制づくりに尽力していく所存です。どうぞよろしく願いいたします。

本年度の看護学部・看護学研究科の組織目標を、「一人ひとりが輝き、成長できる組織づくり」といたしました。基盤とするのは、本学部の底力宣言の3つの目標であり、これらを継承し、さらに具体化してまいります。3つの目標とは、すなわち、1.つねにより高きものを目指すナース・サイエンティストの育成、2.フロントランナーとしての知の創出・統合・発信、3.個人、地域、日本、アジア、世界のそれぞれに力点をおいたパイオニアへ、です。特に、看護学部、看護学研究科に關係のある人々同士の人間的交流を深め、それを通して学び

あい、成長していけるよう、場や機会づくりに努めてまいりたいと考えています。

学部・研究科の主な近況をお伝えします。昨年度、国公私立5大学院（千葉大学、東京医科歯科大学、高知県立大学、兵庫県立大学、日本赤十字看護大学）による文部科学省博士課程教育リーディングプログラム（災害看護グローバルリーダー養成プログラム）が採択されたのを受け、平成26年度の共同災害看護学専攻設置に向けて準備を本格化していきます。さらに看護学部および看護学研究科のこれまでの教育研究体制面を、先々の社会ニーズを見据え発展的な内容とすべく、整備のための具体的検討も続けていきます。

また看護学部管理棟は、今年の秋から約半年をかけて、耐震を中心に機能を高めるための改修工事に入ります。その間、関係者の皆様にはご苦勞をおかけすることになりますが、教育環境が充実するものと期待しております。

千葉大学看護学部の卒業生は、この3月で2,947名となり、大学院看護学研究科の修了生は878名となりました。卒業生・修了生が、国内外の様々な場で、活躍されております。

今後も、同窓会と緊密な連携をもたせていただきながら、ホームページや、各種ご案内等により、情報発信に努めてまいります。

皆様方のご協力のもと、本学の看護学部、看護学研究科を更に発展させるべく努力してまいります。引き続き、応援をよろしく願いいたします。

平成24年度 総会報告

平成24年7月11日(水)15時30分から、看護学研究科第1講義室にて同窓会総会を開催しました。総会では、会長挨拶の後、運営委員会から平成23年度の活動と入会状況について、名簿委員会からは、会員データベースの更新のための個人票の返送率は全体で44%であり、今後返送率を上げることが課題であること、たより委員会からは、平成23年度のたよりを発行したこと、広報渉外委員会からは、シンポジウムの開催や山田重行先生退官記念品の贈呈、前原澄子先生の平成24年春の叙勲のお祝いとして生花・電報を送り、HPに掲載したこと、ホームページ内容の検討、ネームホルダーの作製、卒業生及び修了生への記念品贈呈等が報告されました。また、平成23年度の会計監査について報告され、承認されました。

平成24年度の新役員が選出され、平成24年度の活動方針について、岡田会長より、①様々な機会を通じて同窓会の活動をアピールし、在学中、卒業後も同窓会とのつながりを感じられるような活動を行なう、②準会員・会員に対する支援の仕組みについて検討することが提案され、討議の結果承認されました。また、運営委員会からは準会員への入会勧誘の強化、名簿委員会からは、平成24年度は名簿発行予定であり、宛先不明者等の連絡先を把握していく予定であること、たより委員会からは、たよりを発行することや、今後、電子媒体によるたよりの実現可能性を検討していくこと、広報渉外委員会からは、ホームページがより活用されるようにするための検討、同窓会企画の計画と実施について等が提案され、承認が得られました。

さらに、会長より準会員の同窓会活動への参加について同窓会規約の改正も含めて検討したいとの提案があり、承認されました。平成24年度の活動予定に対して、平成24年度予算案が審議され、承認されました。

資料1

平成24年度 決算報告

※1 予算との比較(計算式)収入『決算-予算』、支出『予算-決算』、△表記⇒赤字決算、無印⇒黒字決算

正会員の収支		予 算	決 算	予算との比較※1
収入の部	計	9,413,762	9,557,531	143,769
1. 会費	計	8,210,262	8,342,031	131,769
1) 繰越金		7,201,762	7,201,762	0
2) 24年度新入会員終身会費(¥12,000×95名) (内訳 08N卒業生81名 修了生14名)		1,008,000	1,140,000	132,000
3) 利子 (内訳 総合口座¥269)		500	269	△231
2. 企画委員会	計	3,500	0	△3,500
1) 記念誌代		3,500	0	△3,500
3. 名簿委員会	計	1,200,000	1,215,500	15,500
1) 名簿代振込(¥3,000×345冊分)		1,200,000	1,035,000	△165,000
2) 寄付		0	180,500	180,500
支出の部	計	9,413,762	9,557,531	△143,769
1. 理事会	計	256,000	136,701	119,299
1) 会議費		5,000	0	5,000
2) 交際費 (内訳: 弔慰金0円、亥暮祭への寄付50,000円、同窓会員と準会員との交流活動援助36,411円、亥暮キャンパス留学生交流会への寄付50,000円、東日本大震災に関する準会員・会員への支援0円)		250,000	136,411	113,589
3) 雑費		1,000	290	710
2. 運営委員会	計	53,000	28,043	24,957
1) 会議費(交通費・茶菓子)		21,000	7,023	13,977
2) 郵送費(事務連絡通信費)		15,000	8,080	6,920
3) 人件費(総会アルバイト2名分)		10,000	10,000	0
4) 雑費(コピー用紙代、コピー代、ゴム印)		7,000	2,940	4,060
3. 名簿委員会	計	1,537,848	848,338	689,510
1) メンテナンス・データ処理		130,098	26,696	103,402
2) 個人票関係費(個人票後納郵便、ハガキ印刷、発送代)		200,000	211,010	△11,010
3) 名簿制作費(※1)の項目メンテナンス・データ処理込)		1,194,750	604,392	590,358
4) 雑費(振込手数料、バックナンバー名簿郵送費)		2,500	2,040	460
5) 謝金(個人票確認作業補助1名×4時間)		10,500	4,200	6,300
4. たより委員会	計	738,000	777,069	△39,069
1) 印刷費(たより印刷・発送費、たよりへの同窓会企画チラシ封入代)		737,000	777,069	△40,069
2) 雑費(振込手数料)		1,000	0	1,000
5. 広報・渉外委員会	計	337,000	234,482	102,518
1) ホームページ更新費		45,000	17,325	27,675
2) 会議費(招待客・スタッフ弁当代、茶菓子代)		13,000	10,952	2,048
3) 記念誌		1,000	0	1,000
4) チラシ印刷代(企画チラシ印刷代、チラシ三折代)		55,000	50,325	4,675
5) 渉外費 (校友会費、前原先生受勲時祝電、企画シンポジスト・司会謝金、シンポジスト宿泊・交通費、退官記念品・花束、卒業式記念品等)		200,000	141,600	58,400
6) 人件費		21,000	0	21,000
7) 雑費(勤務形態データ投下)		2,000	14,280	△12,280
6. 予備費	計	6,491,914	7,532,898	△1,040,984

平成24年度 千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会の会計監査を実施した結果、収支共に正当であることを認めます。

平成25年4月5日

監査

和住 淑子
小川 純子

資料2

平成25年度 予算案

収入の部	計	8,478,898
1. 会費	計	8,445,398
1) 繰越金		7,532,898
2) 新入会員会費(¥12,000×76名分) (内訳 09N卒業生71名、修了生5名)		912,000
3) 利子		500
2. 企画	計	3,500
1) 記念誌代(¥3,500×1冊)		3,500
3. 名簿委員会	計	30,000
1) 名簿購入見込(¥3,000×10名)		30,000
支出の部	計	8,478,898
1. 理事会	計	406,000
1) 会議費		5,000
2) 交際費 (内訳: 弔慰金: 30,000 亥暮祭への寄付: 50,000 同窓会員と準会員との交流活動援助: 40,000 亥暮キャンパス留学生交流会への寄付: 50,000 大学院オープンキャンパス運営補助: 30,000 学部学生への支援: 200,000 (1件あたり5,000円×40名見込み))		400,000
3) 雑費		1,000
2. 運営委員会	計	53,000
1) 会議費		21,000
2) 郵送費		15,000
3) 人件費(総会託児アルバイト謝金2名分)		10,000
4) 雑費(コピー代等)		7,000
3. 名簿委員会	計	323,500
1) メンテナンス・データ処理		100,000
2) 個人票関係費(督促ハガキ印刷発送費、後納郵便代)		210,000
3) 雑費(郵送代・コピー代等)		3,000
4) 謝金(個人票確認作業補助10時間分)		10,500
4. たより委員会	計	781,000
1) 印刷発送費		780,000
2) 雑費		1,000
5. 広報・渉外委員会	計	325,500
1) ホームページ更新費		45,000
2) 会議費		13,000
3) チラシ印刷代 (印刷予定部数3,000部、三つ折料金含む)		55,000
4) 渉外費(校友会費・謝金・卒業式記念品(バラ))		200,000
5) 人件費(卒業式記念品準備作業10時間分)		10,500
6) 雑費		2,000
6. 予備費	計	6,589,898

Curio(キュリオ) 千葉大学校友会SNSの 入会方法

1. <http://www.chiba-u.ac.jp/sns/>を開き、をクリックし、『Curio』入会申込書(正会員用)より、入会申込書の書式をダウンロードする。
2. 入会申込書に必要事項を記載し、本人であることを確認できる書類(運転免許証、健康保険証など)のコピーとともに、校友会事務局まで郵送かFAXで送る。
<送付先> 〒263-8522 千葉県稲毛区弥生町 1-33 FAX 043-284-2550 千葉大学校友会事務局
3. 校友会事務局で正会員の資格を持っていることを確認したうえで、『Curio』への登録を行う。
4. 登録が完了したら、メールで連絡をする。

平成25年度 千葉大学大学院看護学研究科説明会案内

－博士前期・後期課程及び修士課程対象－

日 時：平成25年 6月22日（土） 集合時間12：50 開催時間13：00

場 所：千葉大学看護学部 講義・実習室

内 容：（1）看護学研究科の概要と特色
（2）各教育研究分野等教授紹介
（3）カリキュラムの説明
（4）大学院生からのメッセージ
（5）専攻別質問コーナー、大学院生との交流

お問い合わせ・お申し込み先：

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻 1-8-1 看護学部学務係 大学院担当

TEL 043-226-2450 FAX 043-226-2382 E-mail：tae5667@office.chiba-u.jp

千葉大学看護学部ホームページ：http://www.n.chiba-u.jp/

参加を希望される方は、平成25年 6月15日（土）17：00までに、お名前・ご住所・電話番号・E-mail・決定していれば志望教育研究分野を記載し、「大学院説明会参加希望」と明記の上、ハガキ、FAX、E-mail等でお申し込みください。

2012年度 亥鼻祭のご報告とお知らせ

2012年度亥鼻祭実行委員副委員長 看護学部4年 榊 原 のぞみ

2012年11月3、4日、千葉大学亥鼻キャンパスにて第10回亥鼻祭を無事に執り行うことが出来ました。今回は晴天にも恵まれ、今年度から導入したアドバルーンの影響効果もあり、4,000人以上の方にご来場いただきました。ご来場くださった皆様に深く感謝申し上げます。

今年度のテーマは「一期一会」とし、この亥鼻祭での学生同士の出会いを大切に、全員が協力しあって素晴らしい亥鼻祭を作り上げようという思いを込めました。

開催につきましては同窓会の皆様からも寄付金をいただき、私たちの活動をご支援いただきましたこと、心から感謝いたします。私は亥鼻祭に関わることによって、学生がひとつの目標に向かって協力し合うことの素晴らしさを学び、亥鼻祭によって学生間だけでなく地域の方とも繋がる事が出来るということを実感いたしました。皆様のお力を借りながら、これからも長く愛される大学祭となるように活動してまいります。

2013年度の本部会も発足いたしました。今年度を含めまして、これからも亥鼻祭をよりよい活動にしていけるために、皆様に寄付をお願いしたいと考えております。ご協力、ご支援いただければ幸いです。寄付金は一口5,000円で何口でも結構でございます。下記の口座番号まで、郵便振込でお願いいたします。

(口座番号 00160-5-480746

千葉大学亥鼻祭実行委員会)



平成24年度 同窓会企画報告

私が千葉大DNAを感じる時 ～フロンティア精神を発揮する千葉大DNA～



開催概要

日時：平成24年7月7日（土） 13：00～15：00

場所：千葉大学看護学部 第一講義室

企画内容

多くの同窓生が、日本の各地で、また、世界でキャリアを積み重ねています。今回は、さまざまな分野でフロンティア精神を発揮している同窓生の動向について報告をし、その後、同窓生の話をもとに、千葉大という同じDNAを持つ者同士の縦横の交流を深められるシンポジウム企画を実施いたしました。

シンポジスト

窪川 真佐美氏（6期）	合同会社榮眞堂代表社員 ケアプラン日和・デイサービス日和の管理者兼ケアマネジャー
西村 多寿子氏（14期）	医療翻訳ライター
中嶋 秀明氏（18期）	千葉大学医学部附属病院 副看護師長
宮脇 直子氏（33期）	葛飾赤十字産院 助産師

参加者からの声

- ・シンポジストの皆さんのお話が楽しかったです。今まで“千葉大”ということは、良くも悪くも影響がありましたが、何事にも前向きに取り組む姿が千葉大らしいなあと思います
- ・在学生、卒業生と仕事や今後の進路について話し合えてよかった。また、このような場が持てると嬉しい
- ・卒業生の姿を初めて見ることで、とても刺激を受けられた。もっと交流の時間が欲しい
- ・「訪問のあいだで勉強する時間はある」との言葉で、ほんの少しだけ勉強する気が出た

ご意見&今後取り上げてほしいテーマなど

- ・やはり卒業生の話聞いてつながるのが一番かと……。メールアドレス交換、名刺交換の機会があることを周知し、名刺などを持参いただくとよいかもかもしれません。学部生の参加もとてもよいと思います
- ・託児などもあるので、もっとたくさんの同窓生が参加すればいいのにもったいないと思う

皆様のご意見を参考に、今後もよりよい企画を運営致します。平成25年度もお楽しみに！！
企画に参加して下さった皆様、当日運営にご協力くださった皆様に厚く改めて御礼申し上げます。

平成23年度広報渉外委員一同

委員長：石丸美奈（12期） 副委員長：屋久裕介（31期） 委員：村瀬智子（7期）、江幡智栄（13期）、石橋みゆき（14期）、時田礼子（21期）、山下亮子（22期）、鈴木久美（25期）、鈴木悟子（28期）、倉田直樹（30期）、橋内伸介（32期）

特集 1 看護学部と大学病院の人事交流

平成23年度より看護学部と大学病院との人事交流が開始され、大学病院の看護師の方が毎年1～2名、看護学部の特命助教として教育に携わっておられます。現在までに3名の方が来られ、2名は看護学部の卒業生です。今回は、その1人である28期西宮さんの体験をご紹介します。

人事交流での体験と学び

西 宮 岳 (28期)

私は2002年入学の28期生になります。男性看護師が増加傾向にある時代に珍しく、同学年で男子学生は私一人でした。大変だねなんて周囲には言われましたが、優しい同期に恵まれて無事に卒業することができました。卒業後は千葉大学医学部附属病院に就職し、小児科に配属されました。4年目の7月から、新設されたNICU（新生児集中治療室）に異動し現在に至ります。

【人事交流までの経緯】

人事交流での学生実習指導については、同期や後輩が経験しており、話は聞いていました。しかし、聞いた話だけでは想像がつかない部分もあり、意欲というよりは興味程度にやってみたいという気持ちはずっと持っていました。

プリセプターやシニアプリセプターとして新人指導における中心的な役割を担い経験を積んでいくと、指導上の困難を感じることも増え、基礎教育と臨床教育の連携に関心を持ち始め、基礎教育の実際を見てみたいという気持ちが徐々に大きくなっていました。

そのような時期に、人事交流のお話を頂いたので、気づいたらふたつ返事で承諾していました。

【学生実習中の体験】

人事交流期間中に担当した学生実習は、1クールだけでしたが、臨床では見られない学生の表情に触れ、基礎教育がどういったものであるか的一端を実感できました。

担当した学生は実習開始間もない学部3年生でした。病態理解もままならず、勉強の仕方から指導する必要性があり、患者さんやそのご家族との関わりにも消極的な姿を見るにつけ、「今時の若者」なんていう言葉が頭をよぎりま

した。

はじめは薬剤の調べ方から助言を必要とし、控え室にこもりがちであった学生達も、8日間の病棟実習を終える頃には自ら患者さんとの関わりを工夫し、実践することができていました。

指導を通して感じたのは、学生実習の期間は、看護とは何か？看護師とは何をやる職業か？といったことを、しっかりと考え、深めることのできる大事な時間であるということです。

【臨床実習指導者との連携】

臨床の看護師の動きを、大学側の視点で見られたことも貴重な経験でした。小児科病棟にいた4年前と比べて臨床と大学の連携が密になっており、臨床実習担当の副部長はもちろん、どの看護師も忙しい業務の合間を縫って、熱心に学生へ指導してくれていました。その日の患者担当看護師が学生に課題を与えたり、学生の様子を教員である私に教えてくれたりと、丁寧に関わってくれました。

【学び】

学生実習やそれに付随する教員業務を体験できたことで、基礎教育への理解が深まりました。基礎教育はそれだけで完結する訳ではなく、一人前の看護師になるためのスタートラインに立たせることです。

臨床ではつい、「学生の時に何を学んできたんだ」なんてぼやいてしまうことがありますが、新人を受け入れる現場こそが看護師として育て続ける意識を持たなければならないのだと強く実感しました。

特集 2 実習施設探訪

大学病院の近況

江 幡 智 栄 (13期)

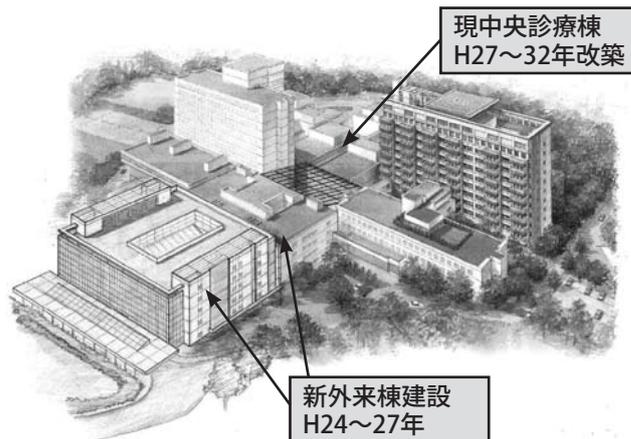
千葉大学病院は、看護学部と同じ敷地内にあり実習でも活用されている、大変身近な存在ではないかと思います。現在当院は、増改築が進んでおり、平成19年にはひがし棟が増築され、それに続きにし棟（これまでの病床のあった棟）、みなみ棟もリフォームされて、6人の大部屋はなくなりました。ひがし棟の1階にはタリーズやローソン、志学書店も入り、患者様だけでなく、職員にも快適な環境になっています。ひがし棟の屋上にはヘリポートがあり、

看護師も搭乗して（ヘリナース）活躍しています。当院では、消防ヘリピックアップ方式が導入されており、医師と看護師をヘリでピックアップして現場まで飛んでいき、初期対応をしています。看護師は、医師と共に傷病者の診療をするだけでなく、傷病者・家族への身体的・精神的看護、安全管理なども担っています。

現在当院の平均在院日数15.7日（平成25年2月現在）、1日の外来患者数は2,500～3,000名と増加しています。

外来患者数増加に対応するため、現在5階建ての新外来棟を建設中で、平成26年度にはオープン予定です。新外来棟には診療科とは別に、看護外来のブースも設けられ、看護の専門性が発揮できる場が拡大されています。看護専門外来としてのWOC外来、フットケア外来、予防を含めたリンパ浮腫外来、在宅酸素通院患者を支援するHOT外来、患者教育のための集団指導などができる体制整備をしています。外来が移転した後は、現在の外来棟の改修工事が始まります。「高度救命救急センター」、「包括的脳卒中センター」の開設、NICU・GCUの増床など、最終的に病床数は現在の835床から920床に増床となります。その頃には看護師も1,000人体制になるでしょう。現在は、各センターの開設に向けて、希望者を募り各専門分野の人材育成計画も始まっています。さらに「院内包括的がんセンター」を設置して、外科治療、化学療法、放射線治療、緩和治療、

トランスレーショナルリサーチの個々の分野の連携、各職種専門家育成と多職種間の連携、地域がん診療連携拠点病院間の連携を推進しています。



葛飾赤十字産院の近況

岡村実佳 (30期)

同窓生の皆さん、こんにちは。30期生の岡村実佳と申します。今回、葛飾赤十字産院の紹介をさせていただきます。

シュークリーム、鶏唐揚げがおいしいお店や、地元のオジサマたちが夜な夜な通う大衆居酒屋が軒を連ねている立石仲見世商店街など…何故か懐かしい空気が漂い、眠っていた昭和の空気を思い出させる街、京成立石。そんな下町の商店街を抜けたところに葛飾赤十字産院があります。

全国の日本赤十字社の中で、唯一の産院であり、東京都地域周産期センターである当院。今年の2月には創立60周年を迎え、記念日の目前、1月には12万人目の赤ちゃんが誕生しました。年間約2,000件のお産があり、言われているような少子化は、ここの産院で働いていると感じず、本当に少子化は進んでいるのか?と疑ってしまいます。

私は学生時代から当院に助産実習でお世話になり、現在5年目の助産師です。ここの産院ではヒューマニゼーションに根ざした看護サービス—当院を利用する女性およびその家族を尊重し、的確なケアを提供する、という理念のもと看護を提供しています。年間約2,000件のお産があっても100人を超える助産師がおり、一人の産婦さんに一人の助産師がつき、マッサージなどをして寄り添いながら出産という女性のライフイベントを迎える準備をします。(もちろんお産が立て込まなければですが…)。妊娠中・産後のクラスが充実していたり、リスクのない妊婦さんであれば、助産師が妊婦健診を担当する助産師外来や、助産師のみで畳の部屋での分娩、その後の産後健診も継続してケアにあたることができます。実際私も、助産師外来やエクササイズクラスなどで顔を合わせたママたちのケアにあたり、とても楽しくお互いに信頼関係が築けているなぁと感じ、やりがいを感じます。担当のエクササイズクラスでは、クラス卒業生のママたちが妊娠中からの繋がりを大事にしたい、と今年に入って育児サークルを作りました。私も遊びに行かせて頂いていますが、妊娠中共に汗を流し、不安を分かち合った妊婦さんが出産し、共に悩みなどを共有しつつ楽しみながら育児をしている姿を見ると、女性・母の

強さを感じ、尊敬の念を抱きます。このような地域に密着しているのも、葛飾ならではの思いです。

今は主にNICUに勤務しています。地域周産期センターであり、リスクのある方々や社会背景が複雑な患者さんも多く、考えさせられることや患者さんから学ぶことも多いです。一番小さい子では妊娠25週、500g台の赤ちゃんのケアにあたることもあります。赤ちゃんからのサインを少しの変化から読み取ることの難しさを感じますが、その赤ちゃんが立派に成長して家族のもとに戻っていくのを見るととても嬉しいです。

私が今まで働いてきて一番心に残っているのは、東日本大震災で当院からの救護初動班として石巻赤十字に支援に行かせて頂いたことでした。日赤では研修やカリキュラムの中で、災害時の対応など学んできたはずでした。しかし未曾有の大震災で関東でも混乱の中、発災2日後に突然行くことになり、自分に何ができるか分かりませんでした。石巻赤十字でたくましく生きる母と子、家族が行方不明・自分の自宅も流されてしまっているスタッフが働く姿を見て、逆に勇気をもらいました。

私は4月から、北海道の浦河赤十字に出向することになりました。施設間で支えあうことができ、新たな病院で働くという経験ができるのも赤十字のよさかなと思います。浦河は過疎地で常勤の産科医がいない状態なので、求められることは違ってくると思いますが、今までの経験を生かし自分なりに任務を果たしたいと思います。



見藤先生を悼んで

昨年11月20日に、本学の初代の看護教育学の教授で第4代学部長を務められた見藤隆子先生がご逝去されました。ご存じのように見藤隆子先生は、千葉大学看護学部から東京大学医学部へ移られ、その後長野県看護大学の創設に尽力された後も、看護協会、看護連盟の会長を歴任され、本当に看護界の発展のためにその人生を捧げられました。同窓会を代表して慎んで哀悼の意を表します。

東京大学と看護学教育

元長野県看護大学学長

見藤隆子 (57医)

私は、千葉大学看護学部長を経て、1986年4月、東京大学医学部保健学科看護学講座教授に就任し、60歳定年になるまでの7年間を勤めた。

東京大学医学部内での看護学教育は、保健学科の前身である衛生看護学科（1953年設立）当初から、存続基盤の危うさの中で行われてきた。衛生看護学科の1回生としてそのことを折に触れ体験し続けてきた。

そもそも、エリート集団と自負する人々の多い東京大学に、医師の手足と考えられ、しかも、女の仕事と思われてきた看護学をそうでないものとして位置づけようと考えた人が50年以上も前に、東京大学医学部に居たことを今も不思議に思う。いまだに90パーセント近い東京大学医学部の人々は、看護学を歓迎しているとは思えないからである。

医学と看護学を対等のものとして位置づけようとする思想は、残念ながらいまだに日本に多くは見られない。

看護学に対する蔑視に出会う度に、人種差別や女性差別の根深さを思うのである。人類愛から発想され、看護学の重要性和教育の必要性から設立された東京大学衛生看護学科の不幸は、それを設立主導された福田邦三先生が在任わずか4年で定年を迎えられたことであつたと思う。

衛生看護学科の教授は総て医師であり、しかも看護学を育てようとする意志を持ち合わせている人は極めて少なかったから、看護教育のために付けられている教育研究予算を、自分の関心事である看護以外の研究に使うように講座の変更を試み、そのため衛生看護学科は10年ほどで（1965年）、保健学科に変更されたのである。

看護学ないしはその発展を志して入学した学生たちは何をしていたのか。私自身について言えば、教師たちの看護学を見下すありように失望し、看護学から一旦離れる行動をとった。

しかし、種々の経験を積むうちに、看護学の価値と重要性に気づき回帰した。

衛生看護学科の卒業生は、ほぼ全員看護職免許を取っていたから、1990年代からの看護系大学急増の時期に大学教員として、その設立に多大な貢献をした。

東大保健学科への変更は、興味深いことに、文部省が学科設立の趣旨である看護教育のため以外の変更を認めなかったことである。そこで、文部省の記録では常に、保健学

科は名称変更とされ、保健学科の人たちが故意に学科改組と言いつつ続けてきたこととの間に齟齬を生じていたのである。保健学科は、文部省の分類では看護学校であるにも関わらず、看護免許を取得する者が20年間ほとんどなかった。文部省視学委員の指摘もあつてのことか、東大から看護教育を受けた者が輩出されないのであれば文部省は、保健学科を取り潰すというようなことがあつたようである。そこで仕方なく、20年以上看護学の教授がゼロであつた東大は、私を迎えざるを得なかったようなのだ。

就任してまず困つたのは、保健学科が、看護学校の範疇であるにも関わらず、看護教育をしようにも人も教育教材もほとんどなかったことである。

医学部教授会、保健学科会議、委員会などで孤軍奮闘、機会をとらえ、動いてみても、我関せずの人ばかりでなかなか前へ進まない。

結果的に保健学科を動かしたのは、見えない外からの私へのサポートであつた。最も決定的であつたのは、国会質問に対する文部大臣の答弁であつた。1990年5月、文部大臣は、質問者に対して、日本における看護大学教育は東京大学で行われており、学部定員43名、大学院修士課程定員20名、博士課程定員10名と答えたのである。これは、総て保健学科の定員である。

国会で明らかにされた以上、保健学科は看護教育の充実

に務めざるを得なくなった。しかし、看護教育に関わりたくない講座が多く、講座変更は難渋した。

結果的に、看護学系講座は、1講座から5講座に増加された。また保健学科の名称では、看護教育の存在が外から見て分からないという我々の主張が入れられ、1993年、保健学科は健康科学・看護学科に名称変更され、私は定年を迎えた。

しかし、残念なことに、学生が集められないとの理由から、健康科学・看護学科は、2010年に健康総合科学科に名称変更され、看護教育の存在が再び外から見えないものとなってしまった。あくまでも名称変更であるから、この学科の設立趣旨が、看護教育をする学科であることを忘れないで欲しい。

東京大学で看護教育が行われていることを人々が誇りに思える日が何時か来るであろうことを楽観し、期待している。



個人票の返送のお願い

個人票はすべての会員の方が返送してください。

送付しました個人票は登録いただいているデータを印刷してお手元にお届けいたしております。個人票は、同窓会からのあらゆる連絡（たよりの発行、名簿の発送など）のための住所のもととなります。さらに、皆様から返送された個人票の情報を元に、看護学部卒業生の現在の就業状況を統計的に把握し、「千葉大学看護学部要覧」に掲載しています。これは、看護学部卒業生の現在の活動状況を知る重要かつ唯一の資料となっております。住所変更や名簿購入希望の有無にかかわらず、個人票の返送による会員データ管理は、毎年継続しておりますので必ず返送くださるようお願い申し上げます。すでに住所変更をはがきで通知されている方も、必ず返送いただきますよう重ねてお願いいたします。

皆さまご多用のところとは存じますが、何卒ご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。

ご注意ください。

マンション購入斡旋業者などから同窓生の自宅に勧誘の電話がかかってくるという苦情がたびたび寄せられています。このような業者は電話番号を同窓会名簿を通して知ったということです。

同窓会では、皆さまから集めた個人情報は厳重に保管し、また名簿も信頼のおける業者に作成を依頼しており、こちらから個人情報が流出することは一切ありません。皆さまのお手元にある名簿の管理については充分にご注意いただきますようお願いいたします。古くなった名簿を破棄する場合には裁断（シュレッダー）するなどしてデータが万が一にも流出しないよう管理の徹底をお願いいたします。

個人票記入の手引き

- ☆ ご自分の個人票データについて、変更・訂正のある場合は、左側の変更・訂正事項記入欄に修正内容をご記入ください。変更・訂正をご記入された方は、同封の個人情報保護シールを上貼して、情報をカバーし、ご返送ください。
- ☆ 勤務形態、設置主体、職種、職位は下記のコード表（コード表は、個人票の左側にもあります）から番号を選択し数字を記入してください。該当するものがない場合には、具体的に記してください。
- ☆ 現住所で連絡が取れないとのために、帰省先の住所をお尋ねしております。
- ☆ 勤務状況については、現在就業している方は「有」に、就業していない方は「無」に○をつけてください。
- ☆ 現在学生の方は最終学歴の「学校名」の欄に学校名を記し、（在学中）とお書きください。勤務を続けたまま学生をされている方（科目等履修も含む）は、勤務状況と学校名の両方のご記入をお願いいたします。
- ☆ 近況報告について、ご記入いただいてもたよりへの掲載を希望されない方は、右のチェック欄にチェックしてください。
- ☆ 名簿に連絡先の掲載を希望しない場合は、該当する訂正欄に「不掲載」とご記入ください。

[コード表]

勤務形態：1. 正職員 2. 臨時職員（非常勤、パートタイマーなど） 3. 休暇・休業中

設置主体：1. 国立大学法人 2. 都道府県 3. 市町村 4. 公益団体 5. 学校法人 6. 医療法人
7. 個人 8. 会社

職 種：1. 看護師 2. 保健師 3. 助産師 4. 養護教諭 5. 看護教育職 6. 研究職
7. 一般職（看護職以外）

職 位：1. 非管理職：一般看護職員、一般専任教員、助手など 2. 中間管理職：師長、主任、市町村等の係長、准教授、講師、助教など 3. 管理職：看護部長、副看護部長、教務主任、市町村等の課長、教授など

個人票返送の締め切り

平成25年6月末日までに返送してください。

専攻	講座	教育研究分野等	教授	准教授	講師	助教・助手	特任等
看護学	基礎看護学	基礎看護学	山本 利江	齊藤しのぶ		椿 祥子 川上 裕子	
		看護教育学	舟島なをみ	中山登志子			(技術職員) 小川 和代 (技術補佐員) 望月美知代
		機能・代謝学	小宮山政敏	田中 裕二		藤田 水穂	
		病態学	岡田 忍		小川 俊子		(技術専門職員) 西尾 淳子
	母子看護学	母性看護学	森 恵美	坂上 明子		森田亜希子 小澤 治美 青木 恭子	(特任准教授) 前原 邦江 (特任研究員) 土屋 雅子 佐伯 章子 岩田 裕子 望月 良美 前川 智子
		小児看護学	中村 伸枝		佐藤 奈保	内海加奈子 仲井 あや 竹中 沙織	
	成人・老人看護学	成人看護学	眞嶋 朋子	増島麻里子		渡邊 美和 楠 潤子	
		老人看護学	正木 治恵			高橋 良幸 河井 伸子 田所 良之	(特任研究員) 林 弥江
		精神看護学	岩崎 弥生		野崎 章子	井上万寿江	
	地域看護学	地域看護学	宮崎美砂子	石丸 美奈		飯野 理恵 時田 礼子	
		訪問看護学	諏訪さゆり		辻村真由子	島村 敦子	
		保健学	北池 正		池崎 澄江		
	災害看護学	災害看護学	(特任) 神藤 猛	(特任) 望月 由紀	(特任) 駒形 朋子	(特任) 白井いづみ	
	看護システム管理学	病院看護システム管理学	手島 恵	小林 美亜			
地域看護システム管理学		吉本 照子	杉田由加里				
ケア施設看護システム管理学		酒井 郁子			黒河内仙奈		
附属看護実践研究指導センター	ケア開発研究部	野地 有子	黒田久美子	赤沼 智子			
	政策・教育開発研究部	和住 淑子	錢 淑君	今村恵美子			

外部資金等講座	特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教	特任研究員
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン		長坂 育代			
エンドオブライフケア看護学 (日本財団)	長江 弘子		櫻井智穂子		
認定看護師教育課程 (乳がん看護分野)		阿部 恭子		大野 稔子	
組織変革型看護職育成支援プログラム		河部 房子			
FDマザーマップ開発				鈴木 友子	
専門職連携FDプロジェクト			小河 祥子	高橋 平徳	
文化看護国際共同研究センター		(望月 由紀)			

※ 下線は正会員